

平成30年度【自己評価結果公表シート】

幼保連携型認定こども園 萬徳寺保育園

1. 園の教育・保育目標

素直な子ども	美しいものを美しいと感じたり、ひたむきに頑張る人に感動したり勇気づけられたりする心を育てる。
たくましい子ども	身体の健康はもとより、何事にもくじけないつよい心を育てる。
規則を守れる子ども	社会生活の基礎となる集団生活での約束事を守ろうとする心を育てる。
命をたいせつにする子ども	命が何よりも最も大切であることを理解し、自分の命と同様に、他の人の命も大切にできる心を育てる。
希望に満ちた子ども	将来への夢と目標を持ち、そのために努力する喜びや達成感を味わうことのできる心を育てる。

2. 本年度の重点目標

① 子ども主体の保育の提供
② 保育環境の配慮
③ 職員の資質向上
④ 地域における子育て支援の実践と情報提供。
⑤ 小学校との連携強化

(40名集計)

評価項目	評価				改善策
	7月		11月		
	いる	いない	いる	いない	
1.教育・保育の計画					PDCAに関しては、具体的な改善を行う事で質の向上をはかる。
・園の基本理念・基本方針・目標・仏教保育三綱領を理解している。	40		40		
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、理念・目標を踏まえた全体的な計画に沿って長期・短期の指導計画を作成している。	40		40		
・乳幼児の発達や実態に即したねらいや内容を設定し、3歳未満児は個別の計画を作成している。	40		40		
・PDCA(計画・実践・評価・改善)サイクルを用いて、質の向上・改善に努めている。	35	5	37	3	
2.保育内容					見通しを持った余裕のある保育を心がけ子どもとの関わり方を見直していく。
・子どもに分かりやすい温かな言葉遣いで、穏やかに話すよう心掛けている。	36	4	37	3	
・子どもの名前は、呼び捨てにせず「ちゃん」「くん」で呼んでいる。	33	7	34	6	
・「はやく」「ダメ」等、制止や禁止の言葉を不用意に使わないよう努めている。	29	11	29	11	
・子どもの目線に立ち、気持ちやおもいを大切にしながら対応している。	39	1	40		
・1人ひとりの発達の連続性や生活の連続性に考慮して生活リズムを整え、見通しをもった保育に努めている。	39	1	40		
・身近な自然や地域、社会と関われるような取り組みをしている。	40		39	1	
・子どもが意欲的に取り組める環境を用意したり、言葉をかけている。	33	7	32	8	
・遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。 (例・社会的ルール・遊びのルール・当番活動・異年齢の交流など)	40		40		
3.保健管理					感染症などに対する情報提供を早目に行えるようにしていく。
・登園時や日常の健康観察、身体測定、健康診断を実施している。	40		40		
・「健康・安全や発達の確保」を図るための学校保健計画(学校保健計画・学校安全計画)を策定し、計画に基づいて生活安全指導・避難訓練・交通安全指導を実施している。	40		40		
・乳幼児の病気やケガ・疾病予防等の情報提供を行っている。	40		40		
4.安全管理					園内研修などを通してより深めていく。
・事故予防・感染症予防・避難訓練・自然災害等に対応出来る危機管理マニュアルがあり、訓練や園内研修の中で活用している。	40		40		
・安全点検(園内・保育室・遊具・ヒヤリハット)を実施し、会議を通して結果や改善点を職員が共有している。	40		40		
・緊急連絡カードの作成・一斉配信メールの登録・関係機関との連携体制を表示にするなど緊急事態発生時への取り組みを行っている。	40		40		

評価項目	評価				改善策
	7月		11月		
	いる	いない	いる	いない	
5.食育					保育研究の取組みを日々の保育に取り入れたり、保護者と連携を取っていく。
・子どもが落ち着いて食事を楽しめるような工夫をしている。	36	4	38	2	
・専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子の状況に応じ、適切な対応を行っている。	40		40		
・給食会議の中で意見を交換し合い、連携して食育活動に取り組んでいる。	40		40		
6.特別支援教育					職員会議などで具体的に伝えていく。
・特別支援教育担当者を決め、家庭・地域社会・関係機関との連携を図っている。	40		40		
・ケース会議のなかで問題意識の共有、連絡事項の確認を行っている。	35	5	35	5	
7.組織運営					繰り返し確認しながら組織の一員としての意識を高めていく。
・職務分担表を配布して、各係りの担当、職務の役割分担を明確化し、管理責任体制の整備をはかり、職員間における「報告・連絡・相談・確認」の連絡・連携体制が整っている。	40		40		
・協力体制の重要性を認識し、上司の指示・指導・同僚の助言に耳を傾け、素直に聞き入れ決定事項・規則・手続き等を守ることができる。	40		40		
・各種文書や個人情報(パソコン・USB含む)を適切に管理し守秘義務の厳守・情報の取扱方針を周知徹底している。	40		40		
・時間を厳守し、健康管理にも気を配り、職務に積極的に取り組むことができる。	40		40		
8.研修(資質向上への取組み)					年間予定を立て園内研修を充実させていく。
・キャリアアップ・更新講習・その他の研修に参加できる勤務体制をつくり、職員に適切な研修機会を確保している。	40		40		
・保育研究に継続的に取り組み、研修・講習会の内容は園内研修を通して還元している。	38	2	40		
・園内研修や自己評価を定期的に行い、資質向上に努めている。	40		40		
9.情報提供					ホームページの内容を広く職員に周知する。
・園に関する様々な情報を、園便り・保育参観・行事等を通して伝えている。	40		40		
・ホームページを活用し、広く周知するための工夫をしている。	35	5	40		
・園の外掲示板等で、地域の人にも情報を発信している。	40		40		
10.子育て支援(地域・社会との連携)					保護者との相互理解を図るため個別の対応ができるよう努力する。
・様々な機会を通して、子どもの様子や出来事を伝え合い保護者との相互理解を図っている。	39	1	40		
・中高生の保育体験・実習・ボランティアの受け入れに当たり、受入れの意義や方針を理解している。	40		40		
・認定こども園として子育て支援が必須であることを理解している。	40		40		
11.環境整備					園の点検もしっかり行い保育者自身の資質向上にも努める。
・健康・安全かつ快適に生活できるよう、清潔感のある環境の維持に努めている。また、日常的に点検改善を行っている。	40		40		
・絵本・教材・用具・用品を適切に活用し、点検整備している。	40		40		
・保育者は、人的環境であることを理解し(爪を短く切る・髪型・髪色・髪が顔にかからなようきちんと結ぶなど)清潔感のある身だしなみを心がけている。	40		40		